

表1-1 発達段階の区分 (森上史朗編「保育のための乳幼児心理事典」P66)

区分の 観 点	年齢(歳)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
社会的 習 慣	研究者																						
	Meumann, E. (1913)	児童期															少年期 少女期	青年期 処女期					
	Spranger, E. (1924)					児童期		中間期	少年少女期			中間期	成熟期(男) (女)										
	Goodenough, F. L. (1945)	言語前期		幼児期		幼稚園期	児童期(男) (女)					青年期											
	Hurlock, E. B. (1924)	新生児 乳児期	児童前期				児童後期(男) (女)			思春期		青年期											
	青木誠四郎	新生児 乳児期	幼児期			児童期(男) (女)					青年期												
文部省教育心理 (1945)	乳児期		幼児期		児童期					青年期		注**充実期(女) *充実期(男)											
身体 発 達	Stratz, C. H. (1922)	乳児期	第一 充実期	第一 伸長期	第二充実期(男) (女)			第二伸長期(男) (女)		第三*	成熟期												
	Cole, L. (1922)	乳児期		児童前期		児童中期(男) (女)			児童後 期(男) (女)	青年前 期(男) (女)	青年中 期(男) (女)	青年後 期(男) (女)	青年後 期										
精神 構 造 の 変 化	Stern, E. (1923)	乳児期	未分化融合期				分化統一期			成熟 前期	分化統一期												
	Kroh, O. (1928)	幼児期		第一反 抗期	児童期				第二反 抗期	成熟期													
	Bühler, Ch. (1937)	第一期 客観的時期	第二期 主観化の時期	第三期 客観化の時期	第四期 主観化の時期			第五期 客観化の時期															
	牛島義友 (1941)	身辺生活時代		想像生活時代			知識生活時代			精神生活時代													
	武政太郎 (1955)	乳児期	幼児期		児童期				青年期														
特定 の 精 神 機 能	松本亦太郎 (用箸運動)				幼児期		児童期			青年期													
	橋崎浅太郎 (握力)				幼児期		児童期		少年期	青年前期		青年後 期											
	阪本一郎 (読書興味)				昔話期	寓話期	童話期	物語期		文学期	思想期												
	Piaget, J. (物活論的世界観) (思考)			[注]1) 第一期	第2 期2)	3) 第三期	4) 第四期																
	Sears, R. R. (動機づけ)	基礎的行動の段階	二次的動機づけの段階																				
			家族中心の学習		家族外の学習																		
	Erikson, E. H. (社会化)	基本的信頼感の段階	自律感の段階	主導感の段階	勤勉感の段階	同一性の段階		親密感の段階															
	Maier, N. R. F. (対人関係)	一次的依存の確立	自己信頼の確立	意味ある二次的関係の確立	二次的依存の確立		依存と独立のバランスの達成																
Nowogrodzki, T. (唯物論)	幼児期	就学前期		学童期			成熟期		青年期														

[注] 1) 万物に意識ありとする時期 2) 動く物すべてに意識ありとする時期
3) 自力で動く物には意識ありとする時期 4) 動物だけに意識ありとする時期